

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児理解演習 I Understanding Children with Disabilities I		2年	前期	月曜日・4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
障害児保育 I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
障害児指導法演習 I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
小竹利夫	講義棟 2階	月・火・水・木の8時～18時	授業中に指示します	
授業の概要				
先ず「障害」の意味を学び直す。次に、子どもや障害者の気持ちを、文字資料やVTRや障害の疑似体験を通して具体的に理解する。また、手話や点字、車椅子介助や盲人介助の仕方などを学ぶ。				
授業の到達目標				
①子どもの行動の見方を知り、気持ちを理解することができるようにする。 ②子ども一人ひとりの気持ちに合わせて保育をすることができるようにする。 ③各種障害の疑似体験を通して、障害状況を理解することができるようにする。 ④各種障害の介助体験を通して、適切な介助をすることができるようにする。				
授業の方法				
文字資料やVTRを使って事例(ケース)を紹介し、具体的に進める。毎回、小レポート提出。また、各種障害の疑似体験・介助体験を行う。				
学習の成果				
①人の行動を通して、その意味や気持ちを理解することができる。 ②子ども一人ひとりの気持ちを理解した保育をすることができる。 ③様々な障害者に対して、気持ちを理解した支援をすることができる。 ④各種障害の疑似体験を通して、障害状況を理解することができる。 ⑤各種障害の介助体験を通して、適切な介助をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。(授業の内容・進め方・評価の方法)			
第2回目	「障害」の意味。偏見・差別とバリアフリー。			
第3回目	手話であいさつ。			
第4回目	視覚障害の疑似体験。(弱視・視野狭窄・近視)			
第5回目	障害児の気持ちの理解の仕方を学ぶ。(行動の意味)			
第6回目	障害児の気持ちの理解の仕方を学ぶ。(視線から思いを読み取る)			

第7回目	幼稚園での教育実習に向けて。(子どもの心を見る)	
第8回目	手話を紹介する。	
第9回目	視覚障害者の介助の仕方を学ぶ。	
第10回目	点字を読む。点字を打つ。	
第11回目	幼稚園での教育実習を振り返り、省察する。	
第12回目	車椅子体験と介助体験。	
第13回目	盲聾二重障害の疑似体験とコミュニケーション。	
第14回目	視覚障害の疑似体験と介助体験。(盲人歩行と手引き)	
第15回目	まとめ。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	50%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。障害の疑似体験と介助体験に真剣に取り組む。
レポート	50%	毎回授業の課題に沿って小レポートを提出する。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書:「心の触れ合いを求めて」(小竹利夫)。 参考資料:実習エピソード集「心の触れ合いを求めて」(2008)(2009)(2010)(2011)(2012)。「実習での心の育ちあい」(小竹利夫)。 その他、適宜資料を配布。		
履修上の心得・ルール		
私語禁止。飲食禁止。		